

教育目標	
豊かな心をもち 健やかに よく遊び伸びる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し ・子どもたちが主体的に周囲の環境にかかわり、夢中になって遊べるように、より保育の充実を目指し、遊びや生活との連続性を考えた環境構成や教師の援助の研修を重ねてきた。概ね達成できたと考えるが、「自分の思いを話す・相手の話を聞く」という点では、少し課題を残すこととなった。 ・子どもたちが主体的に遊ぶことでどのような力が育っていくのか、育ってほしい10の姿へとつながっているのか、エピソードを通して見直してきた。その点では、子どもの遊びや生活の姿からどのような力が育ってきているかという視点を持ちながら、保育を進めることができたことは各教職員の力が積み重なったのではないかと考える。 ・幼児期の育ちは家庭での過ごし方が大きく影響することなど踏まえ、幼稚園での取組の理解と協力をお願いすると共に、子どもたちの育ちをより具体的に機会を見つけて発信し、育ちを共に喜び合えるような温かい関係を今後も引き続きつくっていく。 ・幼児期における主体的・対話的で深い学びの視点から保育を見直し、研修を深めたいと考える。
	学校関係者による意見・支援策 ・「自分の思いを話す・相手の話を聞く」などは、高いめあてのように感じるが、先生方が感じられるのであれば大事なことのだろう。最近世間一般でスマートフォンなどの情報通信機器の普及により、子どもの話を丁寧に向き合っているということが家庭で出来ているのか心配になることがあった。子育ても昔とは変わってきているが、大事なことは変わらない。学校運営協議会でできることがあれば協力する。子育てで何が大事なのか、地域でできることは何かを意識していきたい。 当たり前のことを意識してやっていくことの大切さを感じる。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	8月28日（水）	学校運営協議会（なかよし会）
最終評価	3月10日（火）	学校運営協議会（なかよし会）

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組
・自分の興味ある遊びを見つけ、夢中になって遊び込むための環境構成や援助の見直し、環境の再構成や実践 ・教師との信頼関係を基に安心・安定を基盤とし、それぞれの発達に応じて、身近な人に主体的にかかわる楽しさや喜びを味わうための環境構成や援助 ・子どもが様々な心を動かし、試したり挑戦したり、次の遊びへつなげるための保育環境の工夫や援助 ・感動体験につながる園外保育や栽培活動・地域の方とのかかわりを大事にするとともに、遊びや生活との連続性をもった保育実践 ・協同する遊びや生活の意図的な投げかけ ・幼稚園兄弟を意図的につくり、年間を通して異年齢児がかかわる機会を設定 ・未就園児とのつながりを持てる機会を設定

（取組結果を検証する）各種指標

- ・ 幼児の遊ぶ姿，自己発揮，自己充実，協同性を持とうとする姿の変容・週案の反省，評価・エピソードの検討
 - ・ アンケート項目
- ① 「子どもは幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じているか」
 - ② 「先生や友達とかかわることを楽しんでいるか」
 - ③ 「幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか」
 - ④ 「自分の思いを話したり友達の話の聞いたりしているか」
 - ⑤ 「絵本を見たりお話を聞いたりすることを楽しんでいるか」
 - ⑥ 「体を動かして遊ぶことを楽しいと感じているか」
 - ⑦ 「自然とのかかわりや飼育，栽培活動を楽しんでいるか」
 - ⑧ 「手洗いうがいや持ち物の始末，着替えを自分でしようとしているか」

中間評価

各種指標結果

- ・ 幼児の遊ぶ姿，自己発揮，自己充実，協同性を持とうとする姿の変容・週案の反省，評価・エピソードの検討
 - ・ アンケート項目
- | | |
|------------------------------------|---------------------|
| ① 「子どもは幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じているか」 | 大変そう思う 78%・そう思う 22% |
| ② 「先生や友達とかかわることを楽しんでいるか」 | 大変そう思う 78%・そう思う 22% |
| ③ 「幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか」 | 大変そう思う 55%・そう思う 45% |
| ④ 「自分の思いを話したり友達の話の聞いたりしているか」 | 大変そう思う 33%・そう思う 56% |
| ⑤ 「絵本を見たりお話を聞いたりすることを楽しんでいるか」 | 大変そう思う 52%・そう思う 44% |
| ⑥ 「体を動かして遊ぶことを楽しいと感じているか」 | 大変そう思う 80%・そう思う 17% |
| ⑦ 「自然とのかかわりや飼育，栽培活動を楽しんでいるか」 | 大変そう思う 69%・そう思う 28% |
| ⑧ 「手洗いうがいや持ち物の始末，着替えを自分でしようとしているか」 | 大変そう思う 30%そう思う 64% |

自己評価

分析（成果と課題）

「人やものとかかわり 夢中になって遊び込む子どもを育てるためには」という研究主題から遊びや生活の中で主体的に力を発揮するための教師の援助や環境構成について見直すようにした。また，昨年度からの課題であった園児数と園庭の広さの関係を考え，移動式の雲梯を動かし，季節に応じて安心して遊べる場所をつくり，異年齢がかかわって遊べるように教師が援助をしてきた。そのことが子どもの新たな興味関心を生み出し自ら試したり挑戦したりする気持ちを育むことにつながった。保護者アンケートの結果も良好である。自然栽培活動の取組も毎年定着してきて保護者や地域からも理解を得ている。④や⑧については，個人差はあるが，家庭と協力しながら，将来他者と関わりながら，安定した生活を営むための基本と考え，成長を見守り，模索していきたい。

分析を踏まえた取組の改善

子どもが様々な心を動かし，試したり挑戦したりするための保育環境の工夫は，教職員の協力を得ることも大きい。互いにアイデアを出しながらチームとして協力する体制を今後も大事にしたい。

基本的生活習慣の自立や人とかかわりが心の安定や意欲，自信につながることを踏まえ，家庭との連携を今後も深めていきたいと考える。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・ 幼児の遊ぶ姿，自己発揮，自己充実，協同性を持とうとする姿の変容・週案の反省，評価・エピソードの検討
 - ・ アンケート項目
- ① 「子どもは幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じているか」
 - ② 「先生や友達とかかわることを楽しんでいるか」
 - ③ 「幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか」
 - ④ 「自分の思いを話したり友達の話の聞いたりしているか」
 - ⑤ 「絵本を見たりお話を聞いたりすることを楽しんでいるか」
 - ⑥ 「体を動かして遊ぶことを楽しいと感じているか」
 - ⑦ 「自然とのかかわりや飼育，栽培活動を楽しんでいるか」
 - ⑧ 「手洗いうがいや持ち物の始末，着替えを自分でしようとしているか」

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 基本的な生活習慣の自立は、成長と共に身につけていく事ではあるが、子どもに任せてしまうのではなく、家庭生活の中で保護者が意識して声をかけながら、自分のことは自分でしようと思えるようにしていくことが大事である。
---------	---

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果 ・幼児の遊ぶ姿、自己発揮、自己充実、協同性を持とうとする姿の変容・週案の反省、評価・エピソードの検討 ・アンケート項目 ①「子どもは幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じているか」 大変そう思う 86%・そう思う 14% ②「先生や友達とかかわることを楽しんでいるか」 大変そう思う 86%・そう思う 14% ③「幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか」 大変そう思う 60%・そう思う 37% ④「自分の思いを話したり友達の話を聞いたりしているか」 大変そう思う 35%・そう思う 55% ⑤「絵本を見たりお話を聞いたりすることを楽しんでいるか」 大変そう思う 71%・そう思う 44% ⑥「体を動かして遊ぶことを楽しいと感じているか」 大変そう思う 91%・そう思う 9% ⑦「自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいるか」 大変そう思う 57%・そう思う 40% ⑧「手洗いうがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしているか」 大変そう思う 44%・そう思う 51%
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・今年度、研究を進めた園庭の環境の見直しが子どもの姿や育ちに反映されていることを感じる。体を動かして遊ぶ楽しさを十分に感じ、諸機能の発達や健康な心の育ちを促すことになった。また、子どもが自信をもつことにもなり、さまざまな遊びや生活、園外保育での経験が一つずつつながり、子どもたち自らが遊びを進めていこうとする自立した姿が見られるようになった。 ・教職員がチームで保育に携わろうとする意識が高まり、その思いが保育の質を高め、幼児を多面的に見ようと理解を深めることに結びついた。 ・幼稚園兄弟とのかかわりについては、教職員ではその子なりに思いやりや親しみをもってかわれるようになったと考えるが、発信が不十分だったと感じる。 ・自然とのかかわりについては前期よりも栽培物の収穫が感じられにくかったのかもしれない。
	分析を踏まえた取組の改善 自分の思いを伝える、話を聞くという項目では、保護者・教職員共に課題を感じている。次年度に引き続き、育てたい力として保育の中で意識していきたいと考えている。持ち物の始末など身辺自立については、前期よりも評価は上がっているが、家庭と共に連携していきたい課題である。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 全体的に以前よりも評価が上がっているのは、その通りだと感じる。「自分の思いを話したり、相手の話を聞いたりしているか」「手洗いうがいや持ち物の始末、着替えなど自分でしようとしているか」という項目では、幼稚園と共に家庭でも親子の会話やふれ合いを大切にしながら、子どもたちに力がついていくように意識することも大切かもしれない。

（２）幼小連携・接続に関して

具体的な取組 ・地域の保育所・小学校との交流活動の継続、連携（事前・事後研修・個々子どもの育ちについての話し合い）・就学前、就学後の連絡会 ・学校運営協議会を通しての交流活動 ・「就学支援シート」の活用、「個別の指導計画」の作成・引き継ぎ ・エピソードを基に幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を見取り、小学校へ伝えていく。 ・「学びに向かう力」を明記したアプローチカリキュラムとしての週案の作成 ・「幼稚園における主体的・対話的で深い学び」の視点で保育を見直し、その育ちを発信していく。
（取組結果を検証する）各種指標 ・連携のエピソード検討 ・連携交流保育の回数や合同研修の回数 ・『親子で絵本』の活用度 ・アンケート項目 ①「保育園・幼稚園・小学校・中学校との連携を進め、人とかかわる育ちにつなげようとしているか」

- ② 「絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しんでいるか」
 ③ 「遊びの中で試したり挑戦したりする姿が見られるか」
 ④ 「自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいるか」
 ⑤ 「自分の思いを話したり友達の話の聞いたりしているか」

中間評価

各種指標結果

- ・連携のエピソード検討
 - ・連携交流保育の回数(5回)や合同研修の回数
 - ・『親子で絵本』の活用度
 - ・アンケート項目
- ① 「保育園・幼稚園・小学校・中学校との連携を進め、人とのかかわる育ちにつなげようとしているか」 大変そう思う 75%・そう思う 25%
 ② 「絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しんでいるか」 大変そう思う 52%・そう思う 44%
 ③ 「遊びの中で試したり挑戦したりする姿が見られるか」 後期にアンケート実施
 ④ 「自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいるか」 大変そう思う 69%・そう思う 28%
 ⑤ 「自分の思いを話したり友達の話の聞いたりしているか」 大変そう思う 33%・そう思う 56%

自己評価

分析(成果と課題)

- ・年間計画を立てて見通しをもって取組をしているが、ゆとりがないことも事実である。
- ・2年生との交流の中で教室の座席に座ったりランドセルを背負わせてもらったり、製作をしたことは、子どもたちにとって小学校就学への期待となった。小学校側の交流するクラスが変わるのでつながりを深めることは難しいが、事後の話合いも出来るようになり、幼小教職員同士の共通理解はしやすくなっている。年長の保護者からは幼小連携交流の理解は得られたが、該当学年以外では伝わりにくい面もあるが、説明会の折など伝えてきたことで成果は出ている。
- ・アプローチカリキュラムとしての週案の作成については、見直していきたい。
- ・今年度は「親子で絵本デー」の日を設け、毎週の貸出し以外にも親子で絵本に親しむ機会を増やした。定着してきているが、子どもが自分で読むだけでなく、お家の人に読んでもらうことに幼児は喜びがあり、心が育つことを繰り返し伝えていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・幼小接続は事前の話し合いはするが、事後の話し合いは時間を取ってすることが少ないので、小学校と互いに意識できるようにしていきたい。今年度も1年生との交流(昔遊び)を取入れ、運営協議会にもご協力いただく予定である。
- ・アプローチカリキュラムを基に週案の内容を充実していく。

(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標

- ・連携のエピソード検討
 - ・連携交流保育の回数や合同研修の回数
 - ・『親子で絵本』の活用度
 - ・アンケート項目
- ① 「保育園・幼稚園・小学校・中学校との連携を進め、人とのかかわる育ちにつなげようとしているか」
 ② 「絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しんでいるか」
 ③ 「遊びの中で試したり挑戦したりする姿が見られるか」
 ④ 「自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいるか」
 ⑤ 「自分の思いを話したり友達の話の聞いたりしているか」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

1年生との交流は2学期の取組であるが、昨年度は初めてのことで子どもたちも付いていくのに精一杯だったと思われる。今年は昨年度の経験を活かして子どもたちにとってどうしたら良い体験になるかを考えていきたい。「友達の思いを聞いているか」については、ある程度成長していても難しい面もあるのではないかと、深草の子どももののびのびとした良さも大切にしていきたい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・連携のエピソード検討
 - ・連携交流保育の回数や合同研修の回数
 - ・『親子で絵本』の活用度
 - ・アンケート項目
- ① 「保育園・幼稚園・小学校・中学校と連携を進め、人とのかかわる育ちにつなげようとしているか」 大変そう思う 80%・そう思う 20%
 ② 「絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しんでいるか」 大変そう思う 71%・そう思う 44%
 ③ 「遊びの中で試したり挑戦したりする姿が見られるか」 大変そう思う 91%・そう思う 9%
 ④ 「自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいるか」 大変そう思う 57%・そう思う 40%

⑤「自分の思いを話したり友達の話の聞いたりしているか」 大変そう思う 35%・そう思う 55%	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 今年度も入学する小学校への働きかけを意識して行なった。保護者から子どもたちの小学校入学に対する捉え方がちがってくるという感想を聞くことができた。子どもも保護者も共に小学校への不安がやわらぎ、親しみを感じられることにつながっている。一番近隣の小学校では幼児教育への関心が高まり、教員間の連携もしやすくなった。人と人とのつながりをこれからも積み上げ、連携を深めていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 立地的に道中の安全や連携を深めることは難しいこともあるが、教職員間で同じ地域の学校や幼稚園として、子どもの育ちのために意識して連携していく必要がある。次年度は中学校との連携が増える予定である。カリキュラムの見直しを行なっていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 二年生との交流は定着してきて、どの児童も園児に丁寧にかかわっていると聞いている。一年生とも学校運営協議会を通して昔遊びの交流をしているが、昨年の取組などを参考にしながら良い雰囲気のできたのではないかな。小学校への入学を楽しみにする機会となったのではないかな。この経験が入学してからでも活かされると思う。

（３）預かり保育に関して

具体的な取組 ・預かり保育指導計画の作成，実践，見直しを繰り返す ・園生活が充実し，無理なく過ごせるように自分のやりたい遊びを実現できるような環境づくりや支援をする。 ・担任や教職員が緊密な連携を取る（責任体制と指導体制を整える） ・預かり保育の主旨を伝え，保護者への理解を求め，連携を深める	
（取組結果を検証する）各種指標 エピソード検討・アンケート項目から ① 「ふかふかランド（預かり保育）の時間を楽しみにしている」 ② 「異年齢のかかわりの中で成長したと感ずることがある」	

中間評価

各種指標結果 エピソード検討・アンケート項目から ① 「ふかふかランド（預かり保育）の時間を楽しみにしている」 大変そう思う 69%・そう思う 31% ② 「異年齢のかかわりの中で成長したと感ずることがある」 後期アンケート実施	
自己評価	分析（成果と課題） ・預かり保育を楽しみに出来る計画内容と担当者による丁寧なかかわり，環境構成が子どもや保護者の間に浸透して安心して預かり保育の時間を過ごしている。しかし，保育園が近隣に多い地域であるので，公立幼稚園が 18 時までの預かり保育をしていることが外部の方には浸透していないことが大きな課題である。繰り返し地域に伝えていく必要がある。行事後の預かり保育に関しては，子どもの疲れ具合など心配な面もあるので引き続き配慮していきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 ・説明会やチラシ配布，HPを更新するなど，一人一人に向き合い，丁寧なかかわりが出来る公立幼稚園の良さを伝えていく必要がある。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 エピソード検討・アンケート項目から ① 「ふかふかランド（預かり保育）の時間を楽しみにしている」 ② 「異年齢のかかわりの中で成長したと感ずることがある」

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 預かり保育の保育参画をしているが、読み聞かせなどは季節や子どもの興味に応じて選ぶようにしている。子どもたちの反応を見るのが楽しみである。ボール遊びでは、転がしドッジボールをしたが、一人一人の個性が見えて一緒に楽しめた。これからも子どもたちの遊びの体験が積み重なるように協力したい。
---------	--

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果 エピソード検討・アンケート項目から ①「ふかふかランド（預かり保育）の時間を楽しみにしている」大変そう思う 88%・そう思う 12% ②「異年齢のかかわりの中で成長したと感ずることがある」大変そう思う 60%・そう思う 37%	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ふかふかランド（預かり保育）については、日々の遊びやイベントの充実、担当教員のかかわりなどが大きく評価されたのではないかと考える。子どもによっては、多人数よりも少人数の方がホッとできる場合もある。通常保育との連携を図りながら一人一人に合った取組を大事にしていきたい。 分析を踏まえた取組の改善 幼稚園が長時間預かりをしていることが地域で知られていない傾向がある。説明会やチラシ配布、HPを更新するなど、一人一人に向き合い、丁寧なかかわりが出来る公立幼稚園の良さを伝えていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 昔遊びや読み聞かせをすることは定着してきたが、また新しい取組もあれば、どんどん協力したいと思っている。公立幼稚園が預かり保育をして就労支援もしていることを、もっと保護者の口コミで知ってもらえるといいと考える。アピールの方法を考えてほしい。

（４）子育ての支援に関して

具体的な取組 ・未就園児たまご組（0～3歳児親子）、ぷちひよこ組（2歳児親子）、ひよこ組（3歳児親子）のクラスをつくり、発達に応じた遊びや場を提供し、子育ての楽しさを共有できる場とする ・園庭開放の時間を設け、心と体を解放して遊ぶ場を提供する ・在園児保護者と未就園児保護者が子育てについて語り合える場（説明会）を提供する。 ・ほっこり子育て広場の取組として、誕生会の後、保護者と園長との懇談の場を設ける。（ふかふかタイム） ・季節の絵本の話を読んだり、飾りづくりをしたりするなど保護者のつながりや感性を豊かにする機会を設ける。
（取組結果を検証する）各種指標 教育相談の登録数や参加数、ふかふかタイムでの話し合いの様子から

中間評価

各種指標結果 ・教育相談の登録数や参加数 たまご組とぷちひよこ組登録数 30 人、ひよこ組登録数 18 人 ・ふかふかタイムでの話し合いの様子から 公立幼稚園の良さを感ずて入園したことを喜んでくださっている保護者が多い。給食ありやバス通園、早朝保育など実施している近隣園が多数ある中で本園の教育を理解して幼児期の子どもにとって一番ふさわしいと考えてくださっている。早く子育てから手を引きたい気持ちもあるが、子どもはすぐに大きくなっていく。今のかけがえのない愛らしい時期の成長を見逃したくないと思われている保護者が多い。子育てを大事に考えている保護者が多いので、子どもたちも安定し、より保育の充実を行うことが出来、感謝している。我が子はもちろん他の子どもに対しても愛情をもってかかわってくださる保護者が非常に多い。

自己評価	分析（成果と課題） ・未就園児たまご組（0～3歳児親子）、ぷちひよこ組（2歳児親子）、ひよこ組（3歳児親子）のクラスをつくり、発達に応じた遊びや場を提供し、子育ての楽しさを共有できる場としている。 ひよこ組に関しては、昨年度にぷちひよこ組をつくった成果が表れていると考えているが、現在のぷちひよこ組に関しては、参加人数を考え、より良い未就園児の取組を考えていきたい。母子を必要以上に離さないことが、将来自立へと向かう近道であることを今の園児の育ちからも実感しているが、世の中の動きに合わせながら、新しい取組を考えていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 ・近隣の小規模保育事業、乳児保育施設などに園庭開放のお知らせや月の予定を届けるなどして、人と人とのつながりから、公立幼稚園の存在や良さを広めていく。 ・地域のさまざまな行事にも積極的に参加し、公立の存在を知っていただく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 教育相談の登録数や参加数、ふかふかタイムでの話し合いの様子から
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 近年、出生率が減ってきているので子どもの数が減るのは仕方がないが、公立としてさまざまな役割を担っていることを意識して頑張してほしい。家庭支援の必要性もあり、以前とはちがいの幼稚園も役割が増えているだろう。ポスター掲示など協力できることはしていきたい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果 教育相談の登録数や参加数、ふかふかタイムでの話し合いの様子から	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 教育相談については回数を増やし、季節の飾りをつくる機会を設けたり、時間を伸ばし保育室を開放したりするなど改革をしたが、登録数につながりにくかった。課題を振り返り、次年度で可能なことを考えていきたい。ふかふかランドについては、日々の遊びやイベントの充実、担当教員のかかわりが大きく評価されたのではないかと感じる。多人数が苦手な子どもも落ち着いて遊べる環境となり、安心して過ごすことができた。また、通常保育との連携を図りながらの取組を今後も大事にしたい。
	分析を踏まえた取組の改善 今後も未就園児の子どもや保護者が、幼稚園教育の質の高さを感じ、安心して過ごせるように努力していきたい。また、近隣の小規模保育事業、乳児保育施設などに園庭開放のお知らせや月の予定を届けるなどして、人と人とのつながりから、公立幼稚園の存在や良さを広めていく。地域のさまざまな行事にも積極的に参加し、公立の存在を知っていただく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 未就園児の取組をさまざまにしていることや、内容を工夫してきていることを卒園した保護者の人や地域に知ってもらえるようにがんばってほしい。

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組 ・学校運営協議会を中心として幼稚園のねらいや課題、とりわけ自然体験に向けての取組を地域にも理解していただき、それらの実践のために相談、理解・協力を得られるように働きかけていく ・学校評価などで得られる保護者の声を活かし、幼稚園も変えるべきところを変革していく柔軟性を備える。 ・地域行事に積極的にかかわり、子ども達に多様な経験を保障すると共に地域の人々に幼稚園の取組に対する理解を深め、愛着をもってもらいたい。 ・安全教育の取組に地域の方の協力を得られるように働きかけていく。

（取組結果を検証する）各種指標	
地域行事への参加回数やつながりの深まり・アンケート項目から	
① 「地域とのつながりを大事にし、地域の方の保育参加により、子どもたちが心豊かに育とうとしているか」	
② 「子どもは自然とのかかわりや栽培活動を楽しんでいるか」	
③ 「避難訓練や交通教室を通して、安全に対する意識が変わってきているか」	

中間評価

各種指標結果	
地域行事への参加回数やつながりの深まり・アンケート項目から	
① 「地域とのつながりを大事にし、地域の方の保育参加により、子どもたちが心豊かに育とうとしているか」	大変そう思う 77%・そう思う 23%
② 「子どもは自然とのかかわりや栽培活動を楽しんでいるか」	大変そう思う 69%・そう思う 28%
③ 「避難訓練や交通教室を通して、安全に対する意識が変わってきているか」	後期アンケート実施
自己評価	分析（成果と課題） 学校運営協議会の方の保育参画（七夕笹取り・消防車見学）など保護者の方に見ていただいたことで、地域とのかかわりへの理解は深まっている。また、小学校の運営協議会の方に幼稚園でもご協力いただいていることで、小学校でもお世話になれる安心感が保護者の中に芽生えてきている。特に消防車が幼稚園まで来て、消防士の方に避難訓練の様子を見ていただいたり、丁寧に防災について教えていただいたりしたことが子どもたちの職業への興味関心を引き出し、憧れが遊びへとつながっていった。これからも地域の方を通して子どもたちの心に響く体験できるようにつなげていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 どうしても行事の数が増えてしまい、子どもたちの主体的な遊びを深めたりつなげたりする時間や気持ちの余裕がなくなってしまう。時期や取組の内容を精選していきたいと考える。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
地域行事への参加回数やつながりの深まり・アンケート項目から	
① 「地域とのつながりを大事にし、地域の方の保育参加により、子どもたちが心豊かに育とうとしているか」	大変そう思う 84%・そう思う 15%
② 「子どもは自然とのかかわりや栽培活動を楽しんでいるか」	大変そう思う 57%・そう思う
③ 「避難訓練や交通教室を通して、安全に対する意識が変わってきているか」	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 地域の幼稚園としてさまざまなことに参加できるよう、これからもサポートしていきたい。子どもたちの発達や成長を見ながら、行事も精選してもらえばいい。出来るだけの協力はしていきたい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
地域行事への参加回数やつながりの深まり・アンケート項目から	
① 「地域とのつながりを大事にし、地域の方の保育参加により、子どもたちが心豊かに育とうとしているか」	大変そう思う 84%・そう思う 15%
② 「子どもは自然とのかかわりや栽培活動を楽しんでいるか」	大変そう思う 57%・そう思う 40%
③ 「避難訓練や交通教室を通して、安全に対する意識が変わってきているか」	大変そう思う 55%
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 地域の方と園外でお会いしたときにも、子どもの方から「〇〇さん、こんにちは」と挨拶する場面もあり、大変地域の方が幼稚園にかかわってくださっていると感じると保護者から聞けることがある。社会に開かれた教育課程の成果が表れている。 避難訓練や交通教室なども地域の方や保護者に参画してもらい、日々の幼稚園での積み重ねを感じてもらう機会となった。これからも防災、安全に対する意識を高めていきたい。

	分析を踏まえた取組の改善 今後も行事でかかわるだけでなく、人と人とのつながりや思いをつないでいけるように丁寧なかかわりを大事にしていきたい。また、同じ深草の子どもにかかわる小学校との連携にも地域の方々を通して互いの理解を深めていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 避難訓練や預かり保育、園外保育の引率など協力できることはしていきたいと思う。地域や子どもたちとのつながりも深まってきているので、小学生になっても地域の子どもの見守っていききたいと思っている。幼稚園としても地域とのつながりを大事にしてほしい。

（５）業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標 ○日々の教育活動を見直し、幼稚園における「働き方改革」を進め、より一層の保育の質向上を図る
具体的な取組 ・毎週水曜日ノー残業デーとする。 ・土日、祝日及び、緊急の場合を除き、平日の１８時以降の電話対応は控える。 ・教職員同士のコミュニケーションを大事にし、互いの思いを共有し、支え合えるようにする。
（取組結果を検証する）各種指標 ① 「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」 ② 「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」

中間評価

	各種指標結果 ①「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」 勤務時間が管理されることで教職員の中で時間外勤務を控えようとする意識にはなっている。 ②「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」 教職員は全て子どもたちに真摯に向き合おうと健全な生活を心がけている。
自己評価	分析（成果と課題） 教職員の仕事への意識が高く、園経営に大きな問題はないが、時間外勤務を控えようと考えても時期によっては仕事が重なり、やむを得ない場合もある。本務者が少ない幼稚園では、限られた教職員に負担がかかってしまい、勤務時間を守っても、持ち帰りの仕事が増えてしまう場合もある。日々の保育に支障が出ないように配慮していきたい。 分析を踏まえた取組の改善 社会に開かれた幼稚園をめざしているが、全体的に休日の行事も多く、どのように精選していくかは大きな課題である。 （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ①「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」 ②「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」 ③「勤務時間内に明日の保育の準備などが終わらせるようになっているか」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 さまざまな業務があるので先生たちは大変だと思う。子どもたちのためにという思いはありがたいと思うが、体に気を付けて勤務してほしい。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果 ①「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」 ②「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」 ③「勤務時間内に明日の保育の準備などが終わられるようになっているか」
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 出退勤管理システムを利用するようになり、時間外勤務の時間数を意識できるようになり始めている。教職員が当事者として受け止められるようになってきた。しかし、行事前や月末、学期末などは、時間外勤務になることもあり、行事の見直しが課題である。
	分析を踏まえた取組の改善 来年度は、校務支援員が配置されると思われるので、保育の準備や片付け、教職員の補助や園務の一部を受け持ち、教職員の多忙化を解消できるようにする予定である。そのために、園務がスムーズに行われるように先を見通した計画を立てていきたいと考えている。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 教職員の業務が煩雑にならないように、地域への配布物など協力できることは声をかけてもらおうとよい。預かり保育の時間なども協力し、教職員が心身ともに健康で子どもたちと向き合っていきたいと考える。